

第一展示室

発掘調査から判明した今帰仁城の歴史

パネル 1:

歴史的な記録が乏しいため、琉球諸島の歴史の初期、特に 1600 年以前の数世紀について、多くのことが未だ謎に包まれたままです。当時の政治・文化・生活様式について私たちが知っていることの一部は、外国人の訪問者による記述と中国・韓国・日本の公式の記録が元になっています。他の側面は、この地域が受けてきた戦争などの混乱による甚大な被害にも関わらず保存されてきた文化的遺物や建物などの史料から推し量れます。

しかし、結局、琉球の歴史についての疑問の多くに答えることができるのは、慎重な考古学的発掘調査のみです。これは今帰仁にも該当しました。城の石垣は 21 世紀に入ってもかなり元の形が残っていました。しかし、城の大部分は既に失われており、特にかつてそこにあった数多くの木造の建物はなくなっています。発掘調査からは今帰仁城の建設と拡張、異なる時期における繁栄の度合いに関する知見が得られました。出土した貨幣や陶器の破片の年代測定は、外国との貿易に関する重要な手がかりとなりました。

1982 年から 1985 年にかけて、今帰仁では城の最上部である主郭を中心とした大規模な発掘調査が行われました。地層や建物の遺構、陶器の分析から、13 世紀後半のグスク時代から 17 世紀後半まで続いた今帰仁城の建設の歴史は、4 時期に大別できることが明らかになりました。